

救いの条件

シリーズ～福音の力～

2020/10/04

ルカによる福音書18章9～14節

自分は正しい人間だとうぬぼれて、他人を見下している人々に対しても、イエスは次のたとえを話された。「二人の人が祈るために神殿に上った。一人はファリサイ派の人で、もう一人は徴税人だった。ファリサイ派の人は立って、心の中でこのように祈った。『神様、わたしはほかの人たちのように、奪い取る者、不正な者、姦通を犯す者でなく、また、この徴税人のような者でもないことを感謝します。わたしは週に二度断食し、全収入の十分の一を献げています。』

ところが、徴税人は遠くに立って、目を天に上げようともせず、胸を打ちながら言った。『神様、罪人のわたしを憐れんでください。』言っておくが、義とされて家に帰ったのは、この人であって、あのファリサイ派の人ではない。だれでも高ぶる者は低くされ、へりくだる者は高められる。」

「ファリサイ派」について

新約聖書時代のユダヤ教の3つの教派

ファリサイ派

サドカイ派

エッセネ派

教派誕生の背景(中間時代)

- **神殿が汚される**

- セレウコス王朝のアンティオコス・エピファネス王によるエルサレム占領(前168年)

- **祭司マタティア**

- 祭司マタティアと5人息子たちは山に逃げる
- 安息日に戦わず千人が殺されたことを知り、武力蜂起(ゲリラ戦)を決意する

- **エルサレム奪還とハスモン家による支配**

- 三男ユダ(マカバイ)を中心としてエルサレムを奪還(前165年)し、その後約120年にわたってイスラエルを支配した(ハスモン王朝/祭司十王)

3派の誕生

● サドカイ派

- マタティアの次男シモンが大祭司となり、その宗教的、政治的な立場を支持する党派として誕生

● ファリサイ派

- マカバイの反乱の際、「ハシディーム派(敬虔主義者)」と呼ばれた中下層の人々がいた
- **ハスモン家の支配に反対する勢力**として誕生

● エッセネ派

- サドカイ派にもファリサイ派にも属さないが律法に熱心な人々が荒れ野で共同生活を送りながら信仰を守った(クムラン教団・バプテスマのヨハネ)

3派の誕生

● サドカイ派

- マタティアの次子であるヘロデス・アンティパテリスは、宗教的、政治的な立場をとり、ヘロディオン派として誕生

「その後、彼らにハシダイの一群が加わった。彼らはイスラエルの屈強の者で、皆、律法のためには命をも惜しまない者であった。」(1マカ2:42)

● ファリサイ派

- マカバイの反乱の際、「ハシディーム派(敬虔主義者)」と呼ばれた中下層の人々がいた
- **ハスモン家の支配に反対する勢力**として誕生

● エッセネ派

- サドカイ派にもファリサイ派にも属さないが律法に熱心な人々が荒れ野で共同生活を送りながら信仰を守った(クムラン教団・バプテスマのヨハネ)

ファリサイ派とサドカイ派の違い

	サドカイ派	ファリサイ派
構成員	祭司家系	一般人
	上流階級	中下流階級
活動	神殿中心	在野・会堂
教え	律法中心	律法＋ 言い伝え
信仰	復活・天使・霊 信じない	復活・天使・霊 信じる

ファリサイ派とサドカイ派の違い

	サドカイ派	ファリサイ派
構成		一般人 下流階級
活動	神殿中心	在野・会堂
教え	律法中心	律法 + 言い伝え
信仰	復活・天使・霊 信じない	復活・...

「サドカイ派は復活も天使も霊もないと言
い、ファリサイ派はこのいずれをも認
めているからである。」(使徒23:8)

「ファリサイ派の人々をはじめユダヤ
人は皆、昔の人の言い伝えを固く守っ
て、念入りに手を洗ってからでない
と食事をせず…」(マルコ7:3)

ファリサイ派の問題

- 「言い伝え」を悪用した

- 「こうして、あなたたちは、受け継いだ言い伝えで神の言葉を無にしている。また、これと同じようなことをたくさん行っている。」(マルコ7:13) 例:「コルバン」

- 偽善者

- 「律法学者たちとファリサイ派の人々、あなたたち偽善者は不幸だ。白く塗った墓に似ているからだ。外側は美しく見えるが、内側は死者の骨やあらゆる汚れで満ちている。」(マタイ23:27)

- 罪人と呼ばれる人々を裁いていた

- 「ファリサイ派の人々はこれを見て、弟子たちに、『なぜ、あなたたちの先生は徴税人や罪人と一緒に食事をするのか』と言った。」(マタイ9:11)

ファリサイ派の問題

- 「言い伝え」を悪用した

- 「こうして、あなたたちは、受け継いだ言い伝えで神の言葉を聞き、それをたくさん行っている。」

- 偽善者

- 「律法を厳しく守る偽善者。外側は美しく満ちているが、内側は汚れている。」

- 罪人と

- 「ファリサイ族に、『なぜ、あなたたちの先生は徴税人や罪人と一緒に食事をするのか』と言った。」(マタイ9:11)

元々、律法に熱心で、愛国心の強い人々であったが、いつの間にか自分たちを特別視し、罪人を裁き、律法さえ都合良くねじ曲げるようになった！

「徴税人」について

● ローマ帝国の「徴税請負人」

- ローマ帝国は支配地域において、現地の人間を雇い、税金を集めさせた
- 独立心の強いユダヤ人にとって徴税人はローマに加担する裏切り者だった

● 税金の上前で私腹を肥やす

- 徴税人はローマ帝国から指示された以上の金額を市民から巻き上げ、その利ざやでもうけた
- 「主よ、わたしは財産の半分を貧しい人々に施します。また、だれかから何かだまし取っていたら、それを四倍にして返します。」(19:8 / ザアカイ)

「徴税人」について

● ローマ帝国の「徴税請負人」

- ローマ帝国は支配地域において、現地の人間を雇い、税金を徴収していた
- 独立心が強い現地の人はローマに税金を徴収するに加担する

● 税金の課税

- 徴税人は徴収した以上の金額を市民から徴収した
- 「主よ、わたしは財産の半分を貧しい人々に施します。また、だれかから何かだまし取っていたら、それを四倍にして返します。」(19:8 / ザアカイ)

裏切り者で
汚れた
犯罪者

たとえ話に戻りましょう

二人の人が祈るために神殿に上った。一人はファリサイ派の人で、もう一人は徴税人だった。ファリサイ派の人は立って、心の中でこのように祈った。『神様、わたしはほかの人たちのように、奪い取る者、不正な者、姦通を犯す者でなく、また、この徴税人のような者でもないことを感謝します。わたしは週に二度断食し、全収入の十分の一を献げています。』ところが、徴税人は遠くに立って、目を天に上げようともせず、胸を打ちながら言った。『神様、罪人のわたしを憐れんでください。』

常識を覆したイエス様の結論

● 二人の違い

- ファリサイ派 > 他人と比較して自分を正当化し、形ばかりの宗教生活を誇りにしていた
- 徴税人 > 自分自身の罪深さを自覚し、ただ神の憐れみにすがった

● 意外な結論

- 「言うておくが、義とされて家に帰ったのは、この人であって、あのファリサイ派の人ではない。」

● 神の国のルール

- 「だれでも高ぶる者は低くされ、へりくだる者は高められる。」

なぜ徴税人さえ義とされるのか

- 私たちが救われるのは「神の賜物」だから
 - 「事実、あなたがたは、恵みにより、信仰によって救われました。このことは、自らの力によるのではなく、神の賜物です。行いによるものではありません。それは、だれも誇ることがないためなのです。(エフェソ2:8-9)
- 「神の賜物」とはキリストの十字架による贖い
 - 「人は皆、罪を犯して神の栄光を受けられなくなっていますが、ただキリスト・イエスによる贖いの業を通して、神の恵みにより無償で義とされるのです。」(ローマ3:23-24)

救いの条件

自分は救われるのに値しない者であることを認めること

自分では自分を救うことはできないことを認めること

イエス・キリストの十字架だけが自分を罪から救うことができると認めること

キリストによる救いを受け取ること